



全国連合退職校長会

会報

第五十五回 総会挨拶

全国連合退職校長会
会長 入子 祐三



本日は、令和元年度第55回全国連合退職校長会総会開催に当たり、全国各地から代議員・理事の皆様方にご参集頂き誠に有り難うございました。また、柴山昌彦文部科学大臣の代理として、お見え頂きました文部科学省初等中等教育局主任視学官長尾篤志様をはじめ、ご来賓のご臨席を賜り、総会開催行事に華を添えていただきましたことに心より感謝し御礼を申し上げます。

さて、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが迫ってまいりました。オリンピック・パラリンピックの意義を再確認して、学校教育に生かし実現をはかる時がきました。とりわけ、日本人としての誇りと自覚を身につけ、国際理解と親善に尽くす心情を養う良い機会にしたいものです。

また、開催国の一員として、恥ずかしくない行動をとってほしいと思っています。

教職OBとして、支援の輪を広げる活動をしたいと考えます。

次に、学校における働き方改革を行いながら、新学習指導要領を確実に実施するという課題です。これに加えて学習指導方法の改善が求められ、各教科の学習指導を「主体的・対話的で深い学びの実現」を図るものにしてほしいと言われます。簡単に出来るものではありません。充分な教材研究をして、授業展開の工夫をしなければなりません。練り上げられた指導技術も必

要になります。このように見ると勤務時間を超えてしまう事は必至です。

これをカバーするには、アドバイザーの派遣や、ICT環境の整備等を進める必要があります。また、経営管理者のマネージメントによって、教員以外のスタッフ・地域人材の活用策の登用も考えねばなりません。

いずれにしても、教育力向上のための支援や負担軽減のための協力を全連退として地域の実情に応じて行う必要を感じています。

なお、新しい時代に対応した教育の在り方が課題になっていきます。到来するAIの時代を見据え、これからの教育の在り方について、総合的に検討すべきであると考えます。

日本固有の小学校における授業体系から教科担任制の導入に關しての対応も迫られています。これもむずかしい課題です。免許制度や教員配置等の在り方を考えなくては進まない現状があ

ります。

そのほか、いじめや虐待に適切に対応するための方策・在り方など、教育環境をめぐる課題は山積しています。

全連退としては、理事会・常任理事会・副会長の機会を捉えて、各県会員の声をくみあげ、要望や意見をまとめて関係機関へ提言したいと考えます。また、パブリックコメントの要請に積極的に応えて行きたいと思っております。

なお、第2の課題としている、会員の福利・厚生の拡充と福祉の増進に資する活動をも重視し、連合体としての諸活動を推進したいと考えます。

だいぶ前になりますが、車内づくりのポスターに「心に弦を持つ女性よ」というキャッチフレーズがありました。「心に弦を持つ人よ」と呼び掛けているのです。私はこのキャッチフレーズに心を打たれました。「心に弦を持つ教師よ」「心に弦を持つ親よ」のように読み替えたら

と考えました。いじめ、暴力、偏見、差別等の事案が多発する中、もう一度「心に弦を持つ」と呼び掛けたいのです。「心に弦を持つ教師」「心に弦を持つ管理職」と思っています。全連退の会員の皆さん、心に弦を持つ会員になりましょう。そして、

結びに、ご参会の皆様のご健勝をお祈りするとともに会員各位のご支援・ご協力をお願いして、挨拶いたします。

祝 辞

文部科学大臣 柴山 昌彦様

(代読)初等中等教育局

主任視学官 長尾 篤志様

まずは、このたびの一連の不祥事により国民の信頼を著しく損った文部科学省において、再び信頼を損う事案を職員が引き起こしたことをお詫び申し上げます。今後も、綱紀の肅正を徹



底し、国民の信頼回復に向けて全力を挙げてまいります。

第五十五回全国連合退職校長会総会が盛大に開催されますことを、お祝い申し上げますとともに、全国連合退職校長会が長年にわたり教育の振興・発展に格段の御尽力を続けておられますことに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

文部科学省では、新しい時代に必要な資質・能力の育成のため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるとともに、新学習指導要領の全面実施に向けて、必要な取組を総合的に実施して参ります。また、教師の業務負担の軽減

に向けては、本年一月に中央教育審議会より答申を頂いたことを受けて、学校における働き方改革を着実に進められるよう、業務改善に向けた取組の徹底を図って参ります。

皆様におかれましても、教育に対する深い知識と経験を生かし、初等中等教育の発展のために一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本総会が、所期の目的を達成し多大な成果が得られますよう御期待いたしますとともに、全国連合退職校長会のおますの御発展と、御出席の皆様様の御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。



来賓

全国校園長会長代表

全日本中学校長会生徒指導部長

笛木 啓介様



ただいまご紹介いただきまし
た、全日本中学校長会で生徒指
導部長をつとめております大田
区立大森第三中学校の笛木啓介
でございます。どうぞ、よろし
くお願いいたします。

会長から祝辞を預かって参り
ましたので、代読させていただきます。
きます。

ごあいさつに先立ちまして、

本会の充実・発展のため、尽力
されながら、昨年3月に急逝さ
れた戸張敦雄前会長様のご冥福
を心よりお祈り申し上げます。

さて、本日は、令和元年度第
55回全国連合退職校長会総会が、
かくも盛大に開催されますこと
について、心よりお慶び申し上
げます。本学会長である入子祐
三様はじめ役員の皆様、また関
係の皆様には、日本の未来を
担う日本人を育成する教育の充
実・発展のために全国的規模で
精力的に活動を展開され、ご尽
力されていることにつきまして、
深く敬意を表します。そして、

私も、現役の校長・園長が多
大なお力添えを頂いております
ことに対し、この場をお借りし
て改めて厚く御礼申し上げます。
さて、近年、知識・情報・技
術をめぐる変化の速さが加速度
的となり、情報化やグローバル

化といった社会変化が急速に進
んでいます。その変化は、今後
更に加速し、子供たちは予測困
難な時代を生きることになること

言われています。そのような変
化の激しい予測困難な時代に
あっても、子供たちが予測できな
い変化に対し、主体的に向き合
って関わり合い、自らの可能性
を発揮して未来社会を創り出す
力が身に付くようにと、今回学
習指導要領が改訂されました。
改訂された新学習指導要領は、
小学校においては、令和2年度
から、中学校においては、令和
3年度から全面实施となり、現
在、小・中学校では、移行措置
期間における取組を進めている
ところでです。

このような新学習指導要領の
全面実施に向けた対応の他にも
いじめ・不登校等の諸課題への
対応、学校における働き方改革
の推進、特別支援教育の充実な
ど、学校教育を取り巻く様々な
課題への対応も求められていま
す。

新学習指導要領の理念の実現
を図るとともに、様々な教育課
題を解決していくためには、私
どもが全力で努力していくこと

は当然ですが、人的措置や教材
準備のための予算など、教育環
境の整備が十分に保障されてい
ることも必要不可欠です。その
ため、全日中や全国連合退職校
長会などの教育関係団体は、教
育の実践的専門家集団として、
学校教育に関する課題を収集・
整理・分析し学校教育の充実の
ために還元することや、関係機
関に意見具申などを行っており
ます。

全国連合退職校長会の存在は、
現職にある私どもにとって大変
心強い存在でもございます。今
後も子供たちの輝く未来のため
に、協心戮力の気持ちをもって
取り組んでいくことをお誓い申
し上げますとともに、皆様には、
ぜひお力添えをいただきたく、
この場をお借りしてお願い申し
上げます。

結びに、全国連合退職校長会
のますますの発展と皆様のご健
勝を心より祈念申し上げ、お祝
いの言葉とさせていただきます。

総会報告

日時 令和元年6月5日(水)
会場 きゅりあん(品川区立総合区民会館)

1階 小ホール

出席者 正副会長、常任理事、理事、監事、代議員等

136名

司会・進行 総務部長 田中昭光

1 開会の挨拶 副会長 片山智成

2 国歌斉唱

指揮 事務局次長 中原慎三

3 全連退綱領の唱和

主唱 生涯福祉部長 岡野仁司

4 会長挨拶 会長 入子祐三

5 来賓祝辞

○文部科学大臣 柴山昌彦様

(代理) 初等中等教育局

主任視学官 長尾篤志様

○全国校園長会長代表

全日本中学校長会

生徒指導部長 笛木啓介様

6 来賓紹介

事務局長 徳永裕人

7 議長選出

前日の理事会で木内芳則、川合俊平の両副会長を選出

8 議事

第1号議案

平成30年度会務報告

総務部長 田中昭光

第2号議案

平成30年度決算報告

並びに監査報告

・決算報告

会計部長 三上裕三

・監査報告

監事 佐藤俊市郎 (P10・12)



第55回 全連退総会 (会場風景)

第3号議案

令和元年度役員承認

その1 副会長の退任と承認

(北海道地区)

永峰 貴 ↓ 黒坂由紀子

(東北地区)

佐藤俊彦 ↓ 奈良年永

(関東甲信越地区)

木内芳則 ↓ 新沼隆三

(近畿地区)

片山智成 ↓ 上野清次

(中国地区)

鷺尾 実 ↓ 國友道一

(四国地区)

溝渕正臣 ↓ 藤田繁治

(九州地区)

石塚勝郎 ↓ 山田 稔



議長団

その2 監事の退任と就任

佐藤俊市郎(福島) ↓

鈴木 幹雄(山形)

樋浦 晃治(新潟) ↓

石田 和男(群馬)

大塚 哲雄(静岡) ↓

平瀬 仁紀(石川)

第4号議案

会則の一部改正

・提案その1

〈現行〉第2条(前略) 日本の教育の振興に寄与することを目的とする。

〈改正案〉日本の教育に寄与し、会員の福祉の増進を図ることを目的とする。

・提案その2

〈現行〉第3条2(前略) 中正 健全な教育世論を喚起し(後略) 〈改正案〉「中正」を削除

・提案その3

〈現行〉第5条4(前略) なお、必要に応じて東京都及び関東甲信越地区から若干名増員することができ。 〈改正案〉なお、部長等の役員は理事とする。

・提案その4

第5条の3項目と4項目、第6条の3項目と4項目の順番を入れ換える。

・提案その5

〔現行〕第4章 会議
〔改正案〕第4章 総会等

第5号議案

令和元年度活動目標案並びに事業計画案
各部長・委員長から提案

(P8・9)

第6号議案

令和元年度予算案
会計部長 三上裕三
(P11・12)

第7号議案

「総会宣言」の採択 (P7)
読み上げ 副会長 佐藤俊彦
※各提案は原案通り承認されました。

9 感謝状並びに記念品贈呈 (P5)

10 閉会の挨拶

副会長 山田 稔

感謝状並びに記念品贈呈者

(1) 退任副会長

永峰 貴様 (北海道)

佐藤 俊彦様 (東北)

木内 芳則様 (関東甲信越)

片山 智成様 (近畿)

鷺尾 実様 (中国)

溝渕 正臣様 (四国)

石塚 勝郎様 (九州)

(2) 常任理事

綿引 徳治様 (茨城)

齋藤 隆士様 (神奈川)

丸田 勲様 (新潟)

大野 幸男様 (東京)

(3) 監事

佐藤俊市郎様 (福島)

樋浦 晃治様 (新潟)

大塚 哲雄様 (静岡)

(3) 理事

佐瀬 壽朗様 (岩手)

高橋 和夫様 (宮城)

室井 君男様 (福島)

中塚 博文様 (静岡)

長野 光孝様 (京都)

高橋 修様 (大阪)

重利 忠弘様 (岡山)
竹本 公三様 (愛媛)
城後 武史様 (福岡中)
西平 千治様 (長崎)
喜納 和善様 (沖縄)
三上 雄亮様 (千葉)



感謝状贈呈



記念講演 (午後1時～2時30分)
講師紹介

講師 元長野市立豊野東小学校長
在家禪釈迦牟尼会師家

桐山 紘一様

演題 「歌で聴く 歎異抄の心」



・1941年 長野市に生れる
・1964年 信州大学を卒業
以後県下の小中学校に勤務
・1967年 「たにしの会」
に所属し作曲の勉強を開始
・1991年 長野禅仏教会主
宰 (釈迦牟尼会長長野支部)
☆講演内容の要旨は次号に掲載
いたします。

全国連合退職校長会 綱領

われわれは 全国連合退職校長会の設立以来の歴史や活動を継承し わが国の教育の将来を見定め 会員としての自覚と誇りをもって ここに綱領を制定する

- 一 教育尊重の気運を高め 日本の教育の振興に寄与する
一 生きがいをもって生涯学び続け 充実した生き方を實現する
一 会員の親睦を図り 福利・厚生の拡充に努める
一 地域の教育・文化の向上や 良好な環境の形成に尽力する
一 関係機関・団体と連携・協力して 活動の発展を図る
平成十六年六月十七日 (設立四十周年) 制定

令和元年度 総会 宣言

情報化、グローバル化が急速に進展する不透明な時代を、たくましく、しなやかに生きていく人材の育成には、教育尊重の気運を高め、「社会総がかり」で教育を行うことが大切である。また、今日の社会保障制度改革の動向を見据えて、会員の福祉の増進に努める必要がある。

この時に当たり、全国連合退職校長会は「変化を恐れず創造の営みを断断なく実践する」との思いを強くし、知恵と工夫を念頭に、各都道府県退職校長会の連合体としての活動を進めていく。ここに、総会において、左記事項の實現に尽力することを宣言する。

記

- 一 各都道府県退職校長会との連携を一層密にし 健全な教育世論を喚起し教育の振興に寄与する
一 質の高い学校教育を實現するため 教育条件の整備・充実を期し 政府・関係機関への要望や意見具申を強化する
一 将来展望の持てる年金制度をはじめ 高齢者の負担が過重にならないよう配慮した持続可能な社会保障制度改革を求め 会員の福祉の増進に努める
一 学校支援事業や社会貢献活動など地域学校協働活動への参加を通して 家庭や地域の教育・文化の振興に努め 併せて生きがいのある生涯学習を實踐する
一 会員相互の絆を大切にし 情報の共有や共通理解を図り 校長会や関係機関との連携を一層深め 組織の拡充・活性化を着実に進める
一 国民こそぞって教育の在り方を考える日として 国民の祝日「教育の日」の制定と活動内容の充実を図るため 関係機関や団体とともにその推進に努める
一 東日本大震災・原発事故並びにそれに続く自然災害等で被災された地域の復興と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに 会員の相互扶助と連携の精神により支援に努める

令和元年六月五日

第五十五回 全国連合退職校長会 総会

7 役員候補者選出報告

役員選出委員長 永峰 貴

8 会則の一部改正 (案)

運営対策会議座長 岡野仁司

9 令和元年度活動目標 (案)

並びに事業計画 (案)

各部長・委員長 (P8・9)

10 令和元年度予算案

会計部長 三上裕三

11 「総会宣言」 文案発表

(P11・12) 佐藤俊彦

12 その他

(1)各退職校長会の「令和元年度の概要」の提出
事業委員長代理 堀井榮夫

(2)「加入状況調査について」
教育振興部長 萩原武雄

(3)生涯学習関係調査
生涯福祉部長 岡野仁司

(4)新会員勧誘用会報の増配希望数調査

13 広報部長 村山忠幸

13 全連退の歌

「光にかけて」の斉唱 指揮 中原慎三

14 閉会の挨拶

副会長 片山智成

令和元年度 活動目標・事業計画

活動目標

全国連合退職校長会は、教育尊重の気運を高め教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することを目的とし、伝統と総意による組織活動の成果を基盤として、諸活動の円滑な運営に努め、各退職校長会相互の連携を密にし、連合体としての充実した活動を展開する。

1 各都道府県退職校長会との連携・協力を一層密にし、組織の拡充・活性化に努め、期待され存在感のある退職校長会を目指す。

2 存在感のある退職校長会（存在感のある退職校長会）教育諸条件の整備・充実を図るため、研究・協議を深め、時宜に応じて政府・関係機関へ要望や意見具申を行い、教育の振興に寄与する。

3 安心できる社会保障制度の確立並びに叙勲枠の拡大等について関係機関に要望を行い、会員の福祉の増進に努める。

4 教職員が本来の教育活動に専念できるよう、外部人材の活用や「チーム学校」の仕組み等の働き方改革に関し支援に努める。

5 働き方改革への支援（働き方改革への支援）地域全体で子供たちの成長を支え、いじめのない社会や地域の教育力の向上を目指す地域学校協働活動等への参加を通して、家庭や地域の教育・文化の振興に寄与する。

6 生きがいのある生涯学習を実践し、会員の交流活動や研修・親睦を深め、豊かな生活の実現に努める。

7 会員相互の絆を大切にし、会報等諸情報の共有と共通理解を図り、校園長会との連携を一層深め、組織の活性化に努める。

8 国民こそって教育の在り方を考える日として、国民の祝日「教育の日」の制定並びにその活動内容の充実を図り、教育尊重の気運の喚起・醸成に努める。

9 東日本大震災・原発事故並びにそれに続く自然災害等で被災された地域の復興と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに、会員の相互扶助と連携の精神に基づいて支援に努める。

10 教育関係諸機関・団体と連携し、相互の協力・交流を深め、諸事業の円滑な運営に努める。

事業計画

総務部

《総務部長 田中昭光》

1 本会の綱領や教育憲章の精神及び各退職校長会の意向を踏まえ、年度の目標を定め、各組織間の連絡・調整・相談等に当たるとともに、諸事業の円滑な進行、諸課題の解決に努める。

2 総会、理事会、副会長会、常任理事会等の企画・運営に当たる。また記念講演の企画・実施に努める。

3 関係省庁や中央教育審議会等への要望・意見具申・提言に努める。

4 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会の企画実現に努める。

5 全国組織の教育関係団体と連携するとともにその支援に努め、本会の存在意義の高揚を図る。

6 全連退情報・会報の発行や

（教育の振興）

（生涯学習と豊かな生活）

（諸機関・団体との連携）

（社会貢献活動）

（働き方改革への支援）

（教育の日の推進）

（激甚災害地支援）

ホームページの充実に努め、各都道府県退職校長会への迅速な情報提供をするとともに、情報の共有化を図り会員の連帯感の醸成に努める。

「令和元年度 年間紀要」の編集発行に努める。

「令和2年度の活動目標・総会宣言」の素案を作成する。

「財務状況健全化検討会議」「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成果の具現に努める。

研修会を企画・運営し、情報の収集に努める。

生涯福祉部

「令和元年度 年間紀要」の編集発行に努める。

「全連退教育憲章」の趣旨の徹底・普及に努める。

本年度は、年4回(212号、215号)の会報を発行する。発行予定日は、6月30日、9月30日、1月1日、3月15日とする。

「生涯福祉部長 岡野仁司」

教育課題委員会

「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成果の具現に努める。

中央教育審議会等の情報を収集し、当面する教育課題(小学校教育における教科担任制の導入等)への対応について調査・研究する。

「教育課題委員長 橋本誠司」

事業委員会

「令和元年度 年間紀要」の編集発行に努める。

各団体の総会日程の把握及び祝意に関する事業を行う。

各団体の概要の収集・整理を行い、存在感のある事業等を紹介する。

本部としての研修及び情報交換に関する事業を行う。

教育振興部

「教育の日」の素案を作成する。

「教育の日」について、未制定府県・市町村の制定推進並びに制定都道府県・市町村の事業の充実に寄与するとともに、国民の祝日としての制定を国に働きかける。また、「教育の日」推進の変遷―20

「教育振興部長 荻原武雄」

生涯福祉部

「令和元年度 年間紀要」の編集発行に努める。

「全連退教育憲章」の趣旨の徹底・普及に努める。

本年度は、年4回(212号、215号)の会報を発行する。発行予定日は、6月30日、9月30日、1月1日、3月15日とする。

「生涯福祉部長 岡野仁司」

教育課題委員会

「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成果の具現に努める。

中央教育審議会等の情報を収集し、当面する教育課題(小学校教育における教科担任制の導入等)への対応について調査・研究する。

「教育課題委員長 橋本誠司」

「事業委員会」

事業委員会

「令和元年度 年間紀要」の編集発行に努める。

各団体の総会日程の把握及び祝意に関する事業を行う。

各団体の概要の収集・整理を行い、存在感のある事業等を紹介する。

本部としての研修及び情報交換に関する事業を行う。



「復興・創生を願い、 日々の活動に勤しむ」

福島県公立退職校長会
会長 佐藤 俊市郎

平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故（略・原発事故）から今年で8年が過ぎました。「原発事故」での被災が大きく、浜通りの双葉支部の会員約100余名は未だ誰一人として帰還出来ず、日本各地での避難生活を余儀なくされています。この間、全国の全連退会員の皆様から励ましや義援金を賜り、温かいご支援に感謝と御礼を申し上げます。

の被災県である本県に対してご理解とご支援をお願い申し上げます。

本会は県内4ブロック16支部に2700余名の会員が「双葉の灯を消さない」を合い言葉に、それぞれの支部において「会員相互の親交、教育振興への支援等」をめざし生き生きと活動を展開しています。

この6月には55回目の県研究大会を開催し支部間の交流を深める予定です。

また、県及び市町村の行政機関への要望活動により福利厚生 の充実や教育現場の環境改善に資しています。

さらに、県教委が主催している「十七文字の親子ふれあい事業」の約十萬点を超す俳句作品の一次審査の作業を各支部の会員が担うなど、行政機関との連携も図っています。

本会では、会員減への対応や情報伝達方法（会報配布等）の工夫も含めて限られた予算の執行縮減が課題です。

日々の活動と

活性化に向けて

京都府連合退職校長会

会長 富田 剛史

本会は、京都府内七地域の連合体である。九〇〇余名の会員を擁する地域から、数十名の会員数の地域もある。それぞれに地域性を生かしながら活動を進めているが、役員選出や活動参加者の増加については共通の課題がある。

活性化に向けて次のような取組を継続推進している。

○総会開催地

本会の活動を積極的にすすめる組織の活性化や充実を図るため、京都府を北・中・南に分けて、総会開催地を回している。各地で総会を開催することで、お互いに理解が深まり、結びつきが強くなってきている。

○新入会員の入会促進に向けて

現職時代の多忙さ等から一歩引いてゆっくりしたいと思うところであり、こうした退職者の

会では、積極的に活動する姿勢が減退することがある。また、近年では、年金支給時期の関係から退職後も勤務を続ける会員が多くなっている。こうした事情から、退職後すぐに積極的に参加するには難しい状況がある。しかし、入会促進のためにはタイムリーな声かけが重要である。役員・理事会を土曜日に実施するなど工夫を凝らしているところもある。また、現職の校長が、退職後本会に入会しやすくなるように日頃の繋がりを大切にし、交流会や地域教育活動に取り組んでいる。

○各地域・支部活動の充実

これまでの取組の結果、各地域で素晴らしい事業が行われるようになってきた。そうした活動の状況を府連退の常任理事会・理事会・総会の場で交流することが、各地域・支部活動の活性化に繋がっている。加えて、各世代に合わせた事業計画を工夫して、参加してよかった取組を地道に創造していきたい。

今年度の主な事業

宮崎県退職校長会

事務局長 山下 利昭

本会は昭和44年に結成され、今年度には結成50周年記念の日を迎えます。本会は、校長を経験し、退職した者をもって組織し、本会に賛同する現職校長を準会員としています。県内各地域に11支部あり、それぞれの支部にあった取り組みを実践しています。今年度の事業の中から県全体で取り組む一部を紹介いたします。

1 結成50周年記念事業

- ① 記念式典及び祝賀会の開催
 - ② 「統計資料集」(平成21年度～平成30年度)の発行
- 結成40周年記念以降の活動年表や歴代役員等を掲載する。

2 現職校長との教育懇談会の実施

毎年県全体で各支部・各地域の教育向上に寄与することをめざし、教育懇談会を実施しています。やり方は、全体1か所で開催する支部や中学

3 叙位叙勲資料作成説明会の実施

毎年市町村教育委員会連合会との共催で退職予定者を対象に支部別に説明会を実施しています。関係市町村教育委員会が主催者となり、私たち退職校長会が作成した「叙勲資料作成の手引き」を配布するなどの支援をしています。また、この機会に「退職後のしおり」や「全連退リーフレット」を配布し、入会のお願いをしています。

地方の会報紙より



茨城県退職校長会

「会報」第11号

シニアカーに乗った

常陸太田支部 坪 宏寿

いつの間にか大木となり2階の窓まで迫ってきたエンジュの枝を放っておけなくなりました。梯子をかけてその枝を切り落としました。さらに上の枝へと12尺の三脚梯子を使うことにしました。切り落として降りようとしたとき、足場の三脚が傾いて倒れ、枝に捕まったまま宙づりになってしまいました。日曜の夕暮れ、近くに人の姿はありません。妻も留守。どうしようもなくなり運を天にまかせて手を離しました。

1があつたことを思い出し、借りることにしました。

翌週の町内秋祭りにはシニアカーで登場。多くの人に失敗が知れ渡りました。最高速6km、近所を乗り回すうち、道行く人とことばを交わしたり、深まる秋色の風景に気付いたり、老人達のゆっくりペースに浸りました。レース観戦にもシニアカーで広いサーキットを動き回りました。賑わいの中で観客が私の姿に気付くとすぐ道を空けてくれました。痛いだけの出来事ではなかったかなあ。



愛知県退職校長会

「会報」第39号

抗う

25年度入会 伊藤 邦彦

(元 清須・西枇杷島小)

翌朝病院にかかり、両足指の付け根のヒビが判明。激痛と腫れが続きしばらくは松葉杖という羽目になりました。そこで友人宅に亡くなった親のシニアカ

退職してまもなく六年、肉体も脳みそも衰えていくのは仕方がない。しかし、その中で年相応に維持できるように抗って

いきたい。

○肉体の衰えに抗う

肉体の衰えを感じるようになってから、近くのプールに通っている。退職とともに回数が増えてきた。きちんとした指導は

一度も受けたことはないが、いつものまにかゆつきりではあるが休むことなく三十分、距離にして千メートル泳ぐことができるようになった。

六十五歳を過ぎてからは、プールの利用料金が高齢者割引の適用で半額になった。年金生活者にとってはありがたいことである。

今日も千メートル泳いできた。途中私の横を七十代とおぼしき

○脳みその衰えに抗う

若い頃から台所に立つことが好きだった。学生時代には中華料理屋で働いた。今では、スープレの冷めない距離に住む娘夫婦、孫を含む六人分の夕食を作っている。

一日の予算は限られている。

その中で二歳の孫から六十八歳の家内までみんなが満足してくれる料理を作るとは大変である。

料理のプロセスを試行錯誤することは、脳みそを活性化することとは、脳みそを活性化することではなく、レベルアップする効果もあるという。退職して時間のあまる今こそ、男子台所に立つことをお勧めする。

百歳人生、様々な衰えに、楽しみながら抗っていくことが大事なり。

千葉県退職校長会



「会報」第84号

私の好きな健康法

印旛地区 松田 美智子

「自分は大丈夫、こんな水溜まりはパツと飛び越えられる。身体も柔らかい。こんな事ができないはずがない」と思っていた。だが、今ひしひしと、そう

ではない自分を感じています。少し風があるだけで関節痛、

ちょっと運動しただけで筋肉痛、

信じられないくらい。しかし、ボヤいても始まらない。これからの生活を笑顔で元気に過ごすために、そう、通っています

「スポーツクラブ」!

私には、関節痛の他に心臓の持病もあり、病院に行く度に「体重は?水分は取っていますか?」と聞かれます。心臓や足の関節に負担がかかるので、体重を増やしてはいけません。

そして、水分は、めまい防止や体調を整えるために大切との事です。水分補給に心掛けながら汗を流し、失いつつある活力を取り戻せたら、と思つて通い始めました。

種目は、機能改善ストレッチ、体幹を強くするピラテス、太極拳と気功を併せたタイチー、有酸素運動のエアロビクス、筋トレマシンなどを組み合わせ、自分より年上の方がパワフルに運動している事に元気を頂きながら、楽しんで取り組んでいます。

レッスン前に、インストラクターの方が右手二拍子、左手三拍子など、左右で違う運動を同時に行う脳トレを取り入れてくれるのも助かっています。

ところが、遊びや食事の誘いについて気持ちが悪く感じてしまいました。しかし、それも又、大事な健康法の一つかと思えます。言葉と時間を思つて大切にしています。

ウォーキングをしている方や、他の運動をしている方もおられる事でしょう。しかし、私にはこれが合っていると感じています。

少しの時間ですが、週に三、四回と通っていると、趣味の事、料理の工夫、病気の悩みなど、話せる仲間も増えます。自分の好きな健康法で、無理なく楽しく、長く続けられる方法でと考えています。

体力の現状維持ができています。ことに感謝です。

五反田だより(事務局)

30年4か月続いた平成の時代が終わり、5月1日からは令和元年を用いるという年になった。各行政機関、民間企業、学校などは令和元年のみの表記、西暦と令和の併記、または西暦のみの表記など様々である。

改元の区切りもあって、時代の来し方を顧みながら季節が巡っていく。ふたつの時代を継いだ大型連休も明けた。

令和の始まりは、日本人に「働く」と「休む」ことの再考を促しているように思える。

昨年から理事会・総会の会場は、大井町駅前にある品川区立総合区民会館(きゅりあん)の小ホールを使っている。

同施設は使い易いし、交通のアクセスもよい。

「真の青春は若き肉体の中にあるのではなく、若き精神の中にある。」(ウルマン)

(OH)

◇4月

- 2 部長会
- 12 教育振興部会
- 15 教育課題委員会
- 17 部長会
- 19 30年度会計監査
- 26 生涯福祉部会

◇5月

- 15 部長会
- 24 教育課題委員会
- 27 部長会

◇6月

- 3 広報部会
- 4 令和元年度理事会
- 5 令和元年度総会
- 7 教育振興部会
- 10 広報部会
- 13 部長会
- 17 広報部会
- 20 部長会
- 26 5校種代表と教育懇談会
- 28 教育課題委員会
- 生涯福祉部会
- やよい会

【訂正とお詫び】

①会報211号の10ページの福利情報の中で、1段8行目の「0.7%」は正しくは「0.6%」でした。訂正してお詫びいたします。

②平成30年度年間紀要の23ページの「各都道府県のニュース紹介」の中で、「退職後のボランティア経験」という記事の執筆者は「村松一晃」氏と記載しましたが、正しくは、「村松一男」氏です。訂正してお詫び致します。

編集後記

○梅雨入り前には連日猛暑が続いた今年の初夏でしたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

○第55回全連退総会も無事終了いたしました。ここに総会を特集してお届けいたします。

○入子会長は、総会の挨拶の最後のところで「心に弦を持つ」ことを呼びかけています。私達広報部員もこの言葉をしっかりと受け止め、より良い会報づくり、ホームページづくりを通しての広報活動を行ってまいります。今年度もよろしくご協力をお願いいたします。



全連退会員 バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。送料を含めて、一個一、二〇〇円です。なお、三十個以上まとめますと、一個一、〇〇〇円となります。(全連退事務局)

全連退会報(212号)

発行 令和元年六月三十日
発行所 東京都品川区東五反田

五二一三三三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三四四二八七六八

FAX 〇三三四四二八七六八

Eメール info@sementai.org

振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇

○責任者 入子 祐三

印刷 株式会社 信行社

電話(〇三)三三三三三三六二二